令和２年度「地域活性化推進研究プロジェクト」成果報告書

所属部局名	価値共創オフィス	申請者氏名	長友　文子
研究プロジェクト名	外国につながるこどもへの支援プロジェクト		
当初計画に対する目標達成率	80　％	研究プロジェクトの終了時期	令和３年３月
予算配分総額	500,000　円	経費使用総額	443,880　円（担当課で記入）

【研究プロジェクト事業の成果】※具体的に記入してください

本研究は、和歌山大学の留学生と日本人学生が、地域と連携しつつ「外国につながる子どもたち」の日本語支援・母語支援を行い、それを通して、外国につながる子どもに対する教育支援の効果ある方法や問題点を、実践的に明らかにしようというものである。さらに、本研究では、参加する学生に、支援要員として協力してもらうことだけではなく、支援活動を通して、多文化を生きることの意味を学び、問題に気づいてもらうことを期待して、地域と連携して多文化共生社会を実現してゆくためのいくつかのゴールを設定している。

３年計画の初年度にあたる、令和２年度は、新型コロナにより、支援、研究活動に、大きな制約を受けたため、当初計画通りにはゆかなかったが、しかし、その中でもできる活動を工夫することによって、次の成果をあげることができた。

（１）和歌山市内の小学生への日本語と母語支援

和歌山市教育委員からの依頼の元、３名の外国にルーツをもつ小学生に対し、計４回の交流を実施した。留学生には、先ず、外国人が増加した背景と、外国につながる子ども支援の重要性といった一般的な事項について事前学習を行った。さらに依頼があった学校の担当者（校長、担任教諭、日本語支援員）に子供の状況を「事前ヒアリングシート」に記載してもらい、その情報をもとに、留学生に交流内容を事前指導した。

その上で、交流の場面では、留学生の自主性にまかせて、学校関係者と研究者は、画面で見守ることにした。

交流が終わった後は、関係者に「事後ヒアリングシート」に記入してもらった。

ヒアリングシートや交流場面の記録は、今後の分析研究の重要な資料となるが、当面の支援活動については、日本語と母語支援により、外国につながる子どもが今困っていることや悩んでいることを引き出すことができ、それを学校や親に伝えることができた。また、日本語支援だけではなく、母語支援の必要性を、自治体側に理解してもらえた。一方、留学生にとっても、自分たちのように目的をもって留学している者だけではなく、自分の意志でなく日本に来て、日本語を学んでいる子どもがいるということを知ることで、同じ母語を持つ子どもが置かれている立場、ひいては社会の問題に関心を持つことができた。そして、子どもたちの支援がいかに重要なことであるかを認識できた。

（２）やさしい日本語防災ハンドブックの作成

「留学生と日本人学生の共修」という形で下記の２種類のやさしい日本語防災ハンドブックを作成した。このハンドブック作成により、留学生と日本人学生が、言葉や文化の壁を越え、同じ目標に向かって共に学び、多文化共制社会への意識が高まった。研究者は、作成にあたって、「やさしいにほんご」の歴史や理念などを学生に事前説明し、作成の全過程で問題を共有することで、いくつかの研究課題を発見することができた。

このパンフレットは、地域の協力をえて、外国につながる子どもへの教育支援に活用されることが期待される。また、パンフレットの作成と配布を通して、留学生と地域の方々との横のつながりが、今後ひろがってゆくことが期待できる。

① 「こどものためのやさしい日本語防災ハンドブック」1500 部（学外用）

（現時点では、和歌山県国際交流協会や和歌山県国際課、和歌山市教育委員会や和歌山市国際交流課、御坊市、日高振興局に配布）

② 「留学生と日本人学生のやさしい日本語防災ハンドブック」1000 部（学内用）

（留学生にオリエンテーションで配付。和歌山大学図書館に配架。短期日本語日本文化研修で和歌山大学に来る留学生に配布予定。）

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

当初計画では、初年度の事業として、１）ホームページの開設、２）リソースルームの先進地視察、３）卒業生を含む本学留学生のネットワークづくり、４）県内留学生、市内在留外国人についての実態調査、を予定していた。

しかし、コロナによる活動制約の影響もあって、当初の計画から以下の点を変更した。

１）ホームページの開設を見込んで予算も計上していたが、Kii-Plus のホームページ内にプロジェクトページを開設することにして、独自 HP の開設は見送った。

２）リソースルーム開設にむけた先進地視察の予算を計上していたが、コロナ感染拡大の為、視察は実施しなかった。リソースルームの代わりに、母語が同じ外国人児童生徒たちのオンライン交流を行った。

３、４）留学生のネットワーク作り、県内留学生等の実態調査は、コロナもあって実施できなかった。

以上、コロナによるやむを得ない事情も大きいが、変更や中止があったが、一方、予定していなかった「防災パンフレット」作成という大きな成果をあげた。それらを勘案して、目標達成率を上記のとおりとした。

【今後の展望等】

○ 研究プロジェクトの発展性（根拠に基づき記入）

2019 年に施行された「日本語教育推進法に関する法律」では、「国内における日本語教育の機会の充実」のために、「日本語教育を推進する責務を負うものとして、国・自治体・事業主」が明記され、その施策には「幼児・児童・生徒等に対する日本語教育の充実を図るための就学の支援などが含まれる」となっている。この推進法によって、外国につながる子どもたちへの日本語支援についての行政等の関心も非常に高まっている。今後さらに、「外国につながる子どもの教育支援」という課題を、大学と教委、学校、支援団体が共有し、多文化共生社会の実現に向けて協同してゆく中で、本研究プロジェクトの発展性が大いに期待できる。

○ 外部資金等への申請実績及び今後の予定

留学生と外国につながる子どもの交流に関しては、現在和歌山市教育委員会の外部資金を活用している。今後も自治体からの予算を獲得していきながら、留学生と外国人児童・生徒との交流を行ってゆく予定である。

○ 学内における成果の活用（予定も含む）

このプロジェクトへの参加は，留学生と日本人学生が交流し、協同活動を通して相互理解を深める機会になる。また、支援活動を通して、参加学生の中に、多文化共生の担い手としての意識が育ってゆくことが期待できる。特に、将来子どもたちの教育を担当する教育学部の学生の参加が増えれば、多文化共生意識をもった教職員の育成につながる。

○ 学外における成果の活用（予定も含む）

本年度の活動は、全て学外との連携事業であり、成果をあげたが、今後も、留学生と外国人児童・生徒との交流は、和歌山市教育委員会との共同事業として継続していく予定であり、成果が期待できる。また、「こどものためのやさしい日本語防災ハンドブック」の作成と配布により、大学と地域の多くの機関や団体との連携が、さらに広く展開してゆくことが期待できる。

○ その他特筆すべき事項

【成果の外部公表の方法及び時期】

研究結果については，紀伊半島価値共創基幹が今年度に刊行予定の和歌山大学 Kii-Plus ジャーナルに研究論文およびプロジェクト報告を執筆する。

※研究プロジェクトの内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）や関係資料を添付してください。

経 費 等 使 用 調 査

配分額	500,000　円	支出額	443,880　円	残額	56,120　円

経費別内訳対比表

区　分	配分額				支出額			
	内容	員数	単価（円）	金額（円）	内容	員数	単価（円）	金額（円）
人件費	研究協力謝金			50,000	研究協力謝金（５名）	48 (H)	900	43,200
	計			50,000				43,200
備品費								
	計							
運営費	印刷製本費			60,000	こどものためのやさしい日本語防災ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ	15ß00	105	174,130
					留学生と日本人学生のやさしい日本語防災ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ	1000	140	154,550
	消耗品費			30,000	オンライン相談用パソコン	1	72,000	72,000
	旅費			80,000				0
	交通費			60,000				0
	HP 製作委託料			220,000				0
	計			450,000				400,680
合　　計				500,000				443,880